



国労せんだい

No. 2625
2012年4月25日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

3・28 団交（ダイヤ改正 申16号他）
3・29 団交（業務改善 申21号）
3・30 各支部調査部長会議
4・7 貨物団交（ダイヤ修正積み残し）
婦人部常任委員会

4・10 春闘事務局総括会議
4・13 第8回地方執行委員会
4・14 第40回アスベスト対策会議
4・22 福祉問題学習会・退職者慰労会
4・25 安全問題を検証する集会（仙台・郡山）

エルダー提示やつと終了

勤務地と労働条件が課題

四割応募せず

11年度の新たな再雇用制（JR東日本の再雇用制度。略称エルダー制度）の会社提示がようやく終了した。昨年は4月に退職される方の雇用先が3月に提示され、遅れによる「一発回答」を

避けるよう再三再四要請してきたが、結果的に今回も大幅に提示が遅れた。11年度の対象の組合員は16人（支社全体103人）で、応募者が9人（同86人）、契約者は9人（同79人）、辞退者は0人（同7人）という結果となっている。組合員に関しては、希望

者全員が雇用契約を結ぶ予定だが、9人中5人が勤務地や職種、勤務形態が希望通りにならなかった。また対象者16人中7人（約44%）が初めからエルダー制度に応募しないなど、制度そのものの根本問題（賃金や労働時間、休日数などの労働条件）の改善など抱える課題は多い。また会社は、13年度以降の定年退職のあり方について考え方を示していない。

日航解雇で不当判決

2010年12月31日、経営破綻を理由に乗務員ら165人に対し整理解雇を強行した日航を相手にパイロット76人、客室乗務員72人が地位確認を求めた裁判で、3月29日東京地裁（渡辺弘裁判長）、30日同（白石哲裁判長）はいずれも請求を棄却した。

無視している。

今回の判決は、解雇が「整理解雇の4条件」①人員削減の必要性②解雇回避の努力③解雇対象者選定の合理性④手続きの妥当性をすべて充足しているという、日航側の主張そのまま肯定し判断を下した不当なものと言わざるを得ない。

例えば解雇の必要性については、客室乗務員の削減目標は660人

2010年12月31日、経営破綻を理由に乗務員ら165人に対し整理解雇を強行した日航を相手にパイロット76人、客室乗務員72人が地位確認を求めた裁判で、3月29日東京地裁（渡辺弘裁判長）、30日同（白石哲裁判長）はいずれも請求を棄却した。

に意見を書いてきた人たちだからだ。被解雇者には、航空労働者の組織である航空労組連絡会、日本乗員組合連絡会、航空安全推進連絡会協議の現職議長らの組合役員経験者が軒並み含まれており、また客室乗務員では、会社に見えなかったため嫌悪・昇格差別を受け、年齢が高くて一般職のままだった日航キャビンクルーユニオン組合員が被解雇者の大部分を占めた。加えて、年齢が高いことを理由とする解雇は欧米では差別であるとして厳しく禁じられている。

国鉄「分割・民営化」攻撃により、人生の大半を解雇撤回の闘いに費やすことになった国労組合員の多くはこの日航の不当な解雇攻撃に憤りを感じていると思う。「組合差別の不当労働行為は絶対に許すことは出来ない」と。

JR解雇撤回の闘いでは航空労組の方々の支援も多く頂いた。今度是我々が出来る支援と協力を惜しまず実行する時だ。（投稿者 佐藤勝地本対部長）

近況報告し懇親を深め合う

秋田と山形の仲間が新庄で

3月24日、新庄市内において「国労仙台台本・秋田地本団結交流会」が36人の参加者を得て開催された。（主催 国労山形県支部）

元や希望地に帰れるよう両地方本部の取り組みを確認する場として毎年開催されているもの。会是新庄地区協議会若野議長の下で始まり、主催者を代表し山形県支部原田委員長が「未だこの問題は解決しておらず、現在進行形の課題もある。解消に向け両地本と連携しながら粘り強く闘う」と述べた。

この取り組みは国鉄「分割・民営化」を前後して、秋田県内から山形県内に強制転移された仲間の奮闘を激励し、また一日も早く地

会では両地方本部の代表者の挨拶に続いて各地区や分会毎に全員が挨拶し、お互いの近況に耳を傾けていた。

会には山形から地域間異動を経て秋田（東能代）に勤務した菅原鉄好氏（現在は退職。左写真も参加し、終始和やかな雰囲気の中で散開となった。



変わらない笑顔の「鉄好さん」

青森で反核燃

参加しポート

反核燃全国集会に参加

「4・9反核燃の日全国集会」が4月7日、青森市の青い森公園で開催され、全国各地から千四百十六人が結集しました。

宮城県護憲平和センターからは37人がバスで青森へ。国労は仙総支部と宮城県支部が中心ですが、福島県支部からの参加もありました。

今年は東京電力福島第一原発事故による被害と影響が拡大しており、主催者はもちろん、参加者の皆さん

仲間の異動

◆地域間異動戻り

菊地 敏さん
大船駅→岩沼駅

◆出向

阿部 昭治さん
東北鉄道運輸
(新幹線営業所)

◆一般異動

中嶋 行雄さん
仙台機械技セ
↓同郡山派出



も、▼核と人間は共存できない▼人間は核を使つてはいけない▼唯一の被爆国である日本は原発を持つてはいけない▼私たちは福島を忘れない、という訴えに力が入りました。

そして一千万署名の実現と国民世論の形成によって脱原発を実現しようと訴えました。

その後、会場から青森駅に向けて吹雪の中をデモ行進し、再処理工場の廃止と脱原発を青森市民にアピールしました。

引き続き、フェスティバルシティアウグで室内集会が開催され、ここでも熱い訴えが続きました。▼5月5日に泊原発が定期検査で停止し、全原発が停止する。この機に原発がなくても大丈夫なことを証明しよう▼

を再稼働させる動きが活発になってきている▼再稼働を絶対に阻止するため全力で闘おう、と意思統一が行われました。(力が入って終了時間を大幅に過ぎてしまいました・・・)

翌8日には原燃PRセンターを見学し、六ヶ所村の日本原燃本社正門前で、現地抗議行動に参加し、仙台に戻りました。脱原発を目指して頑張りましょう。

(仙総支部 橋本通信員)



挨拶する高橋さん

長い間お疲れ様でした

高橋さんに感謝

くろう会館の職員であった高橋さんの退職慰労会を市内の泰陽楼で開催しました。高橋さんは30年11月生まれ。48年国鉄に入社し、国労東北自動車支部の仙台分会執行委員長などを歴任し、86年退職。その後26年間、

こくろう会館職員として会館の維持管理業務をされてきました。

現在は鉄道退職者の会仙台支部支部長として、宮城県支部内に事務所を構え、事務手続きなどの業務をされています。

バイタリティあふれる高橋さんは、健康を保つため、今も毎日2・3時間の散歩を欠かさないとのことでした。

これまで高橋さんは、国労の運動に理解を示され、夜遅くまで会館内外の整理と清掃、また私たちを見送りしてからの戸締りまで、いつも温かく見守っていただきました。

高橋さん、長い間本当にありがとうございました。

(聞き手 地本査澤書記)

おといねっぷユニオン結成

国鉄闘争の終結を受け、国労音威子府闘争団は昨年解散した。そしてこの歴史的な闘いを働くものの財産として次代に引継ぎ、地域の仲間と交流を深めるために「おといねっぷユニオン」を結成したと春の訪れを心待ちにしてる北の大地から連絡があった。以下に挨拶文を掲載する。

ご挨拶

日一日と暖くなり、本州からは桜の便りが聞こえる季節となりました。

音威子府は少しずつ暖かくなっているとはいえ雪解けが例年より進まず、いまだに130センチもの積雪が残っています。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、皆様には、国鉄闘争を通して国労音威子府闘争団に一方ならぬお力添えをいただき、改めて感謝を申し上げます。

昨年の国鉄闘争の終結を受け、国鉄闘争の継承と、地域の仲間とのつながりを深めるため、去る3月30日、「おといねっぷユニオン」を結成しました。

当ユニオンは、元国労闘争団員10名とその家族3名の合計13名の組合員で、小さな組合としてのスタートとなりました。最初から国労闘争団と同じだけの運動は到底出来ませんが、まずは交流から始めて、学習を積み重ねていくことで、地域に根ざした労働組合として活動していきたいと思ひます。

そうした中から、少しずつ仲間を増やし、国鉄闘争を伝え、広げることで、社会を変えていく力になることが出来ればと思っております。

この間、国鉄闘争に寄せていただいたお力添えを「おといねっぷユニオン」に注いでいただければ幸いです。

皆様からの叱咤激励をお願いし、挨拶に代えさせていただきます。季節の変わり目でございますので、皆様お身体を大切になさって、ご活躍ください。

2012年4月

〒098-2501 北海道中川郡音威子府村音威子府179 (NPO法人ecoおといねっぷ内)

おといねっぷユニオン

TEL/FAX 01656-5-3368
Email neppu-union@clear.ocn.ne.jp

執行委員長 関野 政幸
副委員長 渡部 定治
書記長 杉山 均
執行委員 千葉 幸司
同 今野 裕之
同 石澤 昭則

会計監査 菅井 啓之
同 薮本 吉修
特別執行委員 小西 邦広
組合員 岡田 靖美
同 渋谷 英之
同 千葉 真貴子
同 杉山 智子

退職のお知らせ

3月31日付

小林 英治さん
仙・宮運輸区
お客様相談室

早坂 勝男さん
仙台駅連
TSS蛇田駅

佐藤 徳男さん
仙総・台車
テクノ利府

長い間お疲れ様でした